

■ OnAir 2500 ユーザーレポート

株式会社テレビ山梨 様

OnAir 2500 - 12



録音室を OnAir 2500 で更新



株式会社テレビ山梨
放送本部 報道制作局 制作技術部
斉藤 敏弘

選定条件

2012年11月、テレビ山梨では録音室の更新工事を行いアナブース、床材、内壁色含め殆どを一新することになりました。その中で音声卓の選択が一番重要なポイントだったのですが、挙げられた条件は、

- ①ラウドネス値計測・補正が容易なデジタル卓であること。
 - ②他部署の人も使用するので簡単な操作であること。
 - ③音質が良いこと。
 - ④トラブルの少ないこと。
 - ⑤予算内に収まること。
- 等でした。



これらを考慮するとスチューダーOnAir 2500が最も適していると判断、導入を決定して工事全体もスチューダーさんをお願いすることになりました。OnAir 2500は卓のみで処理できるためラックを別に必要としません。スペースに制限のある録音室では非常にありがたく、かつデジタル、アナログの入出力が豊富なためレコードプレイヤーなどもそのまま入力できるので回線関係もスッキリすることができました。操作に関しても必要最低限の設定から細かい設定まであるので簡単作業から作り込む作業まで必要に応じて対応できます。

MA 環境を追加

この録音室は今までコメントを中心とした音声素材作業を行う部屋でしたが、今回の更新を期にMA環境を構築したいという意見があり、DSP ジャパンで輸入しているマージング社のピラミクスを紹介していただき導入することになりました。ピラミクスのリモートフェーダーの置き場所をどこにするかで悩んだのですが、OnAir 2500の上に設置できる特注の台を作っていただき、MA作業時は、その台に置いてフェーダー操作ができるようにすることで、オペレーターのリスニングポジションは変わらずにピラミクスのミキシング作業も可能となりました。通常の作業は、コメントのみの録音、CM用音声などの音ミックス、MA作業、の3つとなり

ます。これらをスナップショットに保存してあるので各設定を呼び出すだけで即作業に入れます。

導入して 1 年

OnAir 2500を導入して1年近くが経過しましたが、トラブルは皆無で順調な作業ができると好評です。生放送の無いオフラインの部屋ですが作業によっては一日中卓に触っている部屋なので使いやすさ、トラブルの無さというのは重要な要素です。そして長時間聴いても疲れにくいという音の良さも高いポイントだと言えます。

初めての録音室更新ということで悩みは多かったのですが、色々相談にのって頂き満足できるスタジオが完成しました。スチューダー・ジャパン・ブロードキャスト及び関係各社の皆様にはこの場を借りてお礼を申し上げたいと思います。良いスタジオに仕上げて戴きまして本当にありがとうございます。

